

R7磐田市不登校児童生徒支援プラン

つながり・かかわりプラン

【家庭・地域版】

令和7年9月
磐田市教育委員会 学校教育課



つながり・かかわりプランの目指すところ…

「**どこともつながりのない児童生徒ゼロにする**」、それが私たちの目指すところ。一人一人のこどもたちが安心して過ごすことのできる場所をつくること、それは私たち大人の役割。すべてのこどもたちが自己有用感や自己存在感を感じ、健やかに成長できる場、より多くの人々や社会とつながり、かかわっていける場をつくっていきたいと考えています。

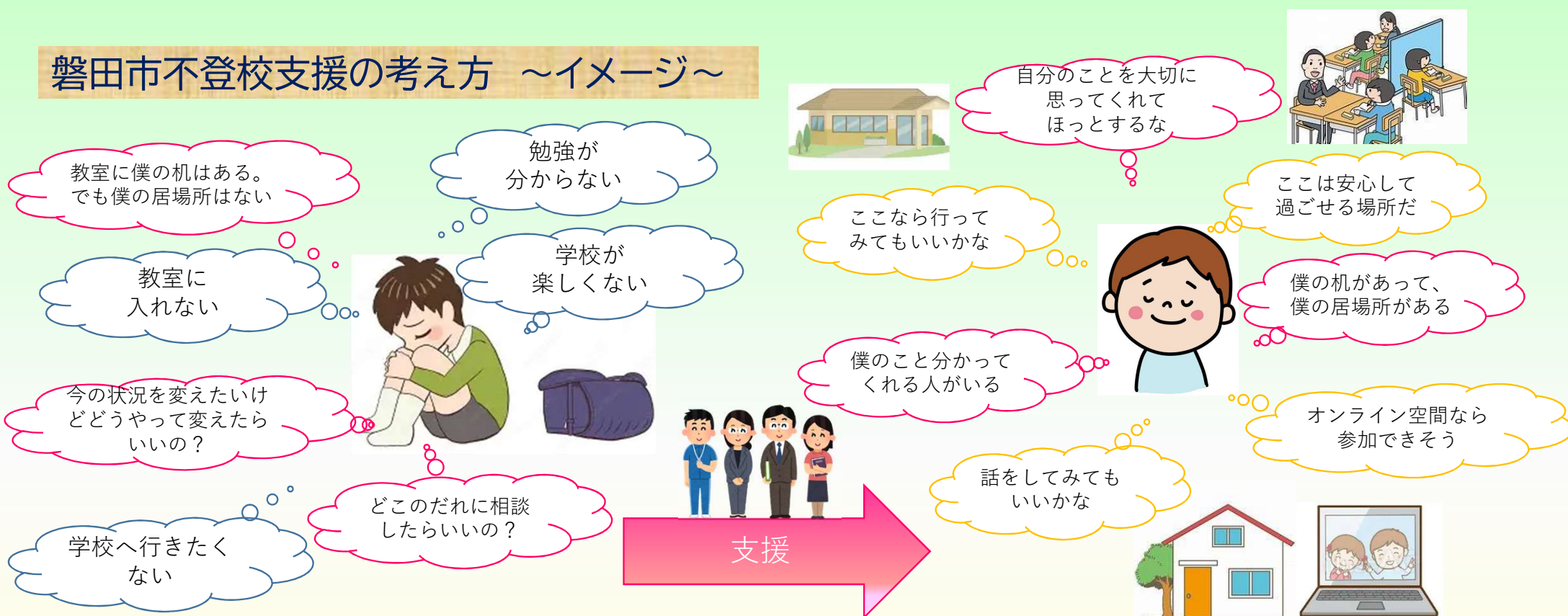
令和6年度、磐田市の小・中学校では、約500名の児童生徒が不登校となっていました。学校に通いたくても通うことができなかつた子、教室に入りたくても入ることができなかつた子、その要因は様々で、人間関係、学びの問題、学校や家庭での環境等、様々な背景が複雑に絡み合っています。

さらには、今の状況を変えたくても変えられない、相談したくてもどこに相談したらよいか分からないと悩んでいる子や保護者がいます。

そんな状況を受け、磐田市では困り感をもつこどもや保護者に対して、校内・校外でつながり、かかわることができるよう、支援体制を整えていきます。そして、こどもが安心して過ごすことのできる居場所づくりを推進していきます。

同時に、魅力ある学校づくりを進め、個々が認め合い、多様性を尊重できるような風土づくりをすること、早期発見・早期対応による未然防止につとめることで、不登校児童生徒を減らしていけるよう、取り組んでいきます。

磐田市不登校支援の考え方 ～イメージ～



- ・学校や教室に自分の居場所がない
- ・人間関係や学力の問題等で学校が楽しくない
- ・周りに自分の思いを打ち明けられない
- ・自分のことを分かってもらえない

- 魅力ある学校づくり
- 早期発見・対応する体制づくり
- 校内に落ち着いて過ごせる居場所づくり
- 校外にニーズに合わせて選べる機能の異なる居場所づくり
- 外に出なくてもつながれる機関の紹介
- 様々な相談・支援機関との連携

- ・教室や支援センター、オンライン空間等に自分が落ち着いていられる場所がある。
- ・自分は一人の人間として大切にされていると感じられる。
- ・自分がここにいてもいいんだという安心感がある。
- ・自分のことを分かってもらえているという安堵感がある。
- ☆自己存在感（あるがままの自分であることを認める）や自己肯定感（自らの価値や存在意義を肯定できる感情）がもてる

つながり・かかわりプラン

(磐田市不登校支援プラン)

【達成目標】

どこともつながりのない児童生徒ゼロ

魅力ある学校づくり

施策1
みんなが主役、みんなが安心して過ごすことができる学校づくりをします



授業づくりと生徒指導の一体化

- ◆こどもが主体となる授業
- ◆生徒指導の視点を意識した授業



児童生徒が主体的に参加する学校づくり

- ◆学級活動や学校行事等の企画・運営
- ◆学校のルールや校則の制定、見直しへの参加



よりよい学校づくりにむけての検証と改善

- ◆学校評価等による学校の雰囲気や環境の把握及び検証と改善

早期発見・対応する体制づくり

施策2
こどもの小さなSOSを見逃さず「チーム学校」による組織的な支援を行います



児童生徒が気軽にできる相談体制づくり

- ◆端末を使ったWeb相談窓口の設置
- ◆心の健康観察の導入と検証



「チーム学校」による組織対応体制の整備

- ◆「つながり・かかわりプラン」について教職員への周知
- ◆学校内外の専門スタッフや関係機関との連携



保護者支援体制の充実

- ◆情報発信
- ・様々な機関の相談窓口
- ・こどもの居場所 ・親の会 等

学校内外における居場所づくり

施策3
不登校傾向にあるこどもの居場所を整え、個々のニーズに合わせた支援を行います



校内及び校外教育支援センターの充実と活用

- ◆校内で安心して過ごせる校内教育支援センターの整備
- ◆各校外教育支援センターの特徴を生かした支援の充実



フリースクール等民間施設との連携

- ◆不登校児童生徒を支援する民間団体との連携
- ◆不登校支援に関する情報の共有や発信



端末を活用したオンライン空間での支援

- ◆オンラインでの授業配信
- ◆県事業「しずおかバーチャルスクール」の活用

【魅力ある学校づくり】

施策Ⅰ みんなが主役、みんなが安心して過ごすことができる学校づくりをします

(1) 授業づくりと生徒指導の一体化

こどもたちの興味や関心、学習進度に合わせて、一人ひとりに適した内容や課題に取り組める授業を心掛けます。
こどもたち自身が「学びたい」という気持ちを持って学習に向かえるよう支援します。

また、授業の中で「友達の話の思いやりを持って聞く」「自分なりに考え、自分で判断する力を育む」「お互いの違いや良さを認め合う」といった**学習と心の成長を支えることを一体として取り組み**、成長をサポートします。

(2) 児童生徒が主体的に参加する学校づくり

こどもたちが学校生活の主役として、学級や学年の活動、学校行事の企画・運営に積極的に参加したり、クラスや学校のルール・校則について話し合い、見直しに関わったりする機会を大切にしています。

「自分たちの学校を、みんなでもっと良い場所にしていこう」という気持ちを育み、責任感や主体性を養います。

(3) よりよい学校に向けての検証と改善

アンケートや学校評価を定期的実施し、学校の雰囲気や環境を数値やデータで「見える形」にします。
そして、計画→実行→評価→改善のサイクルを繰り返すことで、**見つかった課題をしっかりと検証し、改善に取り組んで**いきます。

このような継続的な取り組みを通して、こどもたちにとってより良い学校環境づくりを進めます。

【早期発見・対応する体制づくり】

施策2 こどもの小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」による組織的な支援を行います

（1）児童生徒が気軽にできる相談体制づくり

アンケートや個別面談に加えて、**タブレット端末を使ったWeb相談窓口**を設けます。ちょっとした不安や困りごとを抱えたこどもたちが、気軽に相談できる環境を整えることで、「**相談してみよう**」と思える**きっかけを増やし、早めのサポート**につなげます。

また、タブレット端末を使った「心の健康観察」については、モデル校で試験導入、検証し、効果が確認できれば、より多くの学校での活用を検討していきます。

（2）「チーム学校」による組織対応体制の整備

教職員全員が「**つながり・かかわりプラン**」を共有し、こどもたちの対応について**同じ理解のもとで取り組み、早い段階からの適切な対応**に努めます。

校内の専門スタッフ（スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー）や、校外の専門機関と連携を取り、こどもたちの小さなSOSサインをキャッチし、**一人ひとりに適した専門的なアドバイスやサポートができる体制を整えて**いきます。

こどもたちが困った時には、学校だけでなく様々な専門家が連携してサポートしますので、安心してご相談ください。

【保護者支援体制の充実】

不登校児童生徒の保護者に対して、各機関の相談窓口やこどもの居場所等の情報を発信することで、**保護者が様々な情報を得られる**ようにし、一人で悩みを抱え込まないようにしていきます。また、学校と教育委員会、また市の関係機関とが連携し、**必要な家庭に連絡を取ったり、訪問支援をしたりする**などのアウトリーチ（訪問相談）ができる体制も整えていきます。

不登校児童生徒及び保護者への相談支援体制

学校に相談したい

【相談窓口】

- ◇担任 学年主任 生徒指導主任 養護教諭 等
- ◇スクールカウンセラー（心理面）
スクールソーシャルワーカー（生活・福祉面）

【児童生徒の相談窓口】

- ◇一人一台端末によるWeb相談窓口
- ◇各校実施の心のアンケート、個別面談 等

【校内の居場所づくり】

- 校内教育支援センター
- 端末を用いたオンライン授業

学校外の機関に相談したい

【相談・対応策検討】

- ◇磐田市教育委員会学校教育課 教育支援グループ
（電話相談 こども悩み相談コーナー）
- ◇こども若者家庭センター（こども相談ダイヤル 女性相談）
- ◇こども未来課 発達相談グループ

連携機関

- ◇児童家庭支援センター「たより」
（電話相談 面談 訪問相談 メール・手紙相談）
- ◇西部児童相談所（静岡県子ども・家庭110番）
- ◇磐田警察署 生活安全課 少年サポートセンター
- 【生活面での支援】
- ◇磐田市福祉相談課（生活相談等）福祉政策課（民生委員、児童委員等）
- 【発達面での支援】
- ◇磐田市発達支援センター「はあと」
- ◇NPO法人 まちづくりネットワーク

【県の機関】

- ◇静岡県総合教育センター
（個別面談 ハロー電話「ともしび」
24時間SOSダイヤル）
- ◇静岡県教育委員会
（なやみ相談ナビ「はなそっと」）
- ◇静岡県健康福祉部（LINE相談）

同じ悩みを抱える保護者と話したい

- ・あすなろの会
- ・不登校を考える親の会・磐田
- ・ツナガル居場所
- ・スキナダケ
- ・ハッピーの会

学校外の居場所を知りたい

【校外教育支援センター】

- ・あすなろ（弥藤太島）
- ・あすなろ2（見付）
- ・第3の教育支援センター（堀之内）

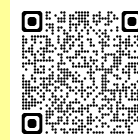
【磐田市にある民間団体によるフリースクール】

- ・ハッピーフリースクール
 - ・いわたツナガル居場所ネットワーク
 - ・子どものデイケア（福田西病院）
 - ・フリースクール アスノルーム
- その他、市外にある民間団体によるフリースクール

【自宅における学びの場】

- ・端末による学校のオンライン授業
- ・しずおかバーチャルスクール（県事業）

☆関係機関に関する連絡先等の情報はこちらから見るができます。



【学校内外における居場所づくり】

施策3 不登校傾向にあるこどもの居場所を整え、個々のニーズに合わせた支援を行います

(1)校内及び校外教育支援センターの充実と活用（※次ページ参照）

教室に入ることが難しいと感じているこどもが、**学校内で安心して過ごせる居場所**「校内教育支援センター」を充実させていきます。また、市内3か所の校外教育支援センターでは、それぞれの施設の特色を生かして、**一人ひとりに寄り添った支援**を行います。

「今日はここなら行けそう」「ここなら安心できる」と思える居場所づくりを行い、こどもたちのペースに合わせて支援する体制をつくっていきます。

(2)フリースクール等民間施設との連携

学校とフリースクールなどの民間団体と連携し、情報を共有することで、**こどもの自立に向けた継続的な支援**を行います。

また、**不登校に関する情報（イベントや保護者の会など）を民間団体と共有**し、家庭に役立てていただける情報を提供していきます。

学校だけでなく、地域の様々な団体や機関が協力して、多方面から支援する体制を整えます。

(3)端末を活用したオンライン空間での支援

オンラインでの授業配信や、静岡県の「**しずおかバーチャルスクール**」を活用することで、**自宅での学習機会や友達との交流、社会とのつながりをもてる場**を提案します。

オンラインの特性を生かし、こどもたち一人一人のペースに合わせて、無理のない範囲で学びと人とのつながりを継続できる環境を整えます。

校内における不登校児童生徒の居場所

校内教育支援センター

【目的】

自分の教室に入ることに不安や困難を感じている児童生徒に対して、校内に安心して過ごせる場を確保し、自分のペースで生活・活動できるようにします。

【センターの機能】

- ・自分が受け入れられ、居場所としてリラックスして過ごすことができる場
- ・個々の思いに合わせて、活動することができる場

校内教育支援センターの目指す姿

【児童生徒の姿】

- ・個々のニーズに合った過ごし方や多様な活動ができ、自己存在感を得ることができる

【センター運営】

- ・校内のセンター担当者及び児童生徒を支援するセンター相談員(心の教室相談員)を配置しています。担任や学年主任等とも連携しながら運営をしています。

【利用にあたって】

- ・担任、センター担当者が保護者、児童生徒と面談を行い、センターの目的について説明したり、利用の仕方を確認したりして利用を始めます。

R7

中学校全校(10校)
小学校10校
(うち、拠点・巡回方式6校)設置

R6利用者数

小学校	46人
中学校	121人
合計	167人

個別スペース

パーテーション等を使った個別の空間で、自分のペースで過ごすことができる場も使えます。



興味のあることに取り組んだり、友だちとコミュニケーションを図ったりすることができます。

協働スペース



地域人材の活用による体験活動

気持ちを落ち着かせて過ごすことができます。他と関わるきっかけともなります。

リラックススペース



周りの視線を気にすることなく入室できるような場所へ設置したり、個別と友だちとの活動、相談員にゆっくり相談できる空間等を作ったり、各校でレイアウトを工夫しています。

【具体的な活動】 個々の思いに合わせた過ごし方をする

- ・興味・関心に応じた学び
- ・相互に関わり合う活動
- ・多様な体験活動
- ・地域人材による活動
- ・相談員への相談
- 等

校外における不登校児童生徒の居場所

校外教育支援センター

【目的】

学校に登校することが難しい児童生徒に対して、落ち着いて過ごせる場を校外に整備し、個々のニーズに合わせて生活・活動できるようにしていきます。

あすなろ

磐田市弥藤太島

個別や集団での生活を通して生活リズムを整えるとともに、仲間や職員等との関わりを通して社会的自立の力を育んでいる。

☆主な活動内容

- ・栽培活動
- ・交流活動
- ・体験活動
- ・スポーツ 等



あすなろ
2

磐田市見付

温かくゆったりとした家庭のような雰囲気の中、1対1の関わりを大切にしている。まずは一歩外へ出ることから始め、自分に合ったペースで来室し、過ごせる居場所としている。

☆主な活動内容

- ・個別相談
- ・体験活動
- ・eスポーツ 等



第3の
教育支援
センター

磐田市堀之内

令和6年度に開設した公設民営型の施設。不登校児童生徒への支援の実績やノウハウが豊富な団体が運営しており、体験プログラムを通してこどもの興味・関心を広げている。

☆主な活動内容

- ・体験活動
- ・スポーツ
- ・ソーシャルスキルトレーニング 等



利用者数

		R5	R6
あすなろ	小 中 訪問	11人 22人 13人	10人 20人 8人
あすなろ2	小 中	20人 11人	18人 12人
第3の教育支援 センター	小 中		9人 6人
合計	小 中	35人 42人	40人 43人

☆こども・保護者への支援

・通級支援

各教育支援センターにおいて、こどもの状態に応じて、個別や小集団で学習や体験活動を行います。

・訪問支援

訪問支援員が定期的に家庭訪問をして、保護者との情報交換やこどもの心の支援を行います。

・保護者支援

保護者の不安や悩みに寄り添い、指導員との面談や、あすなろの会（親の会）を開催し、支援をしていきます。